

岡山市都市計画マスタープランの評価・検証について



令和6年10月

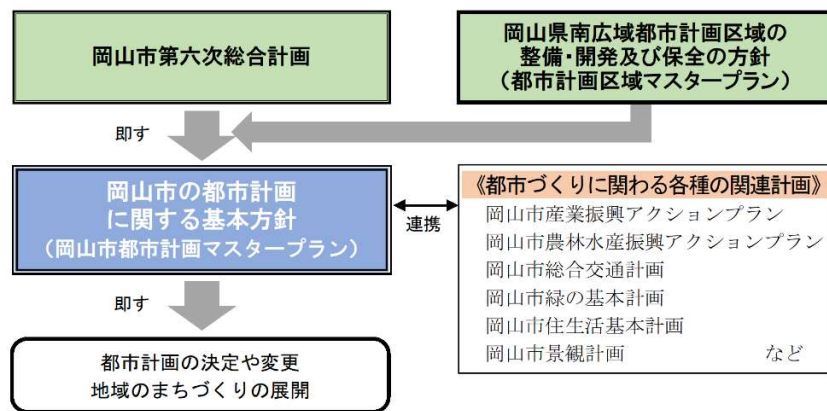
1. 都市計画マスタープランの概要	1
2. 都市計画マスタープランの評価・検証	4
3. 上位・関連計画との整合	13
4. 見直しの判断と今後の都市づくりの進め方	14

1 都市計画マスタープランの概要

都市計画マスタープランの位置付けと役割

- 都市計画マスタープランとは、**都市計画法第18条の2の規定に基づき**、都市の将来像を踏まえ、土地利用の方針、都市施設や市街地整備の方針などを定める**都市計画の総合的かつ体系的な計画**である。
- **岡山市第六次総合計画、岡山県南広域都市計画区域マスタープランなどの上位計画に即し**、本市の都市づくりに関わる各種の関連計画と連携して定め、これに基づき、都市計画の決定・変更や都市計画事業等を進める。

■都市計画マスタープラン体系図



■都市計画マスタープランの役割

- 市民に広く都市づくりの方針を知らせる
- 都市計画の決定及び変更の指針
- 都市整備に関する施策展開の指針
- 住民主体のまちづくりの指針

岡山市都市計画マスタープランのこれまでの策定経緯

平成24年3月 岡山市都市計画マスタープラン（以下「マスタープラン」という。）策定

岡山市の目指す都市像である「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」、「中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市」の実現に向け、上位計画である「岡山市都市ビジョン[新・岡山市総合計画]」に即して、本市の都市づくりの基本方針を定める。

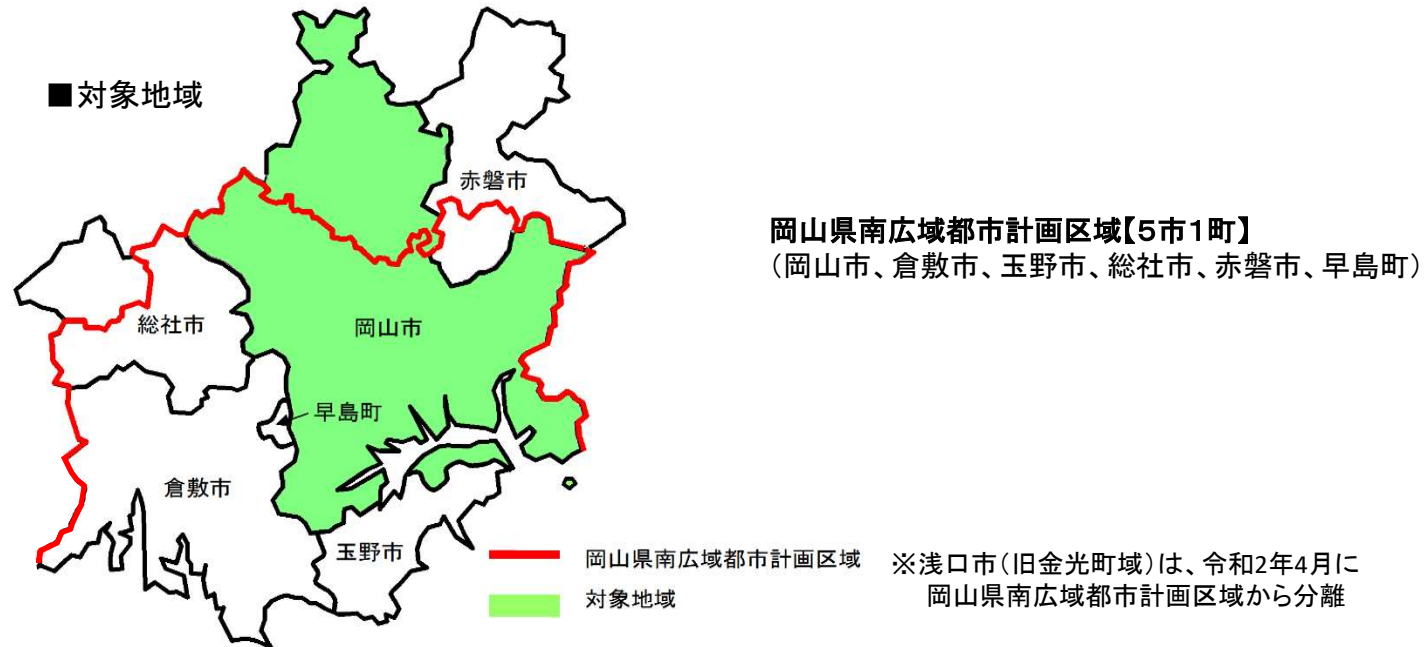
平成31年4月 マスタープラン 改定

将来の人口減少の見通し、地震や土砂災害・洪水などの都市災害への危惧、増加する空き家、インフラの老朽化など社会情勢の変化や、岡山市第六次総合計画・岡山県南広域都市計画区域マスタープランなど上位計画の改定を受け、**人口減少社会においても持続的に発展できる都市づくりに向けて見直しを実施。**

1 都市計画マスタープランの概要

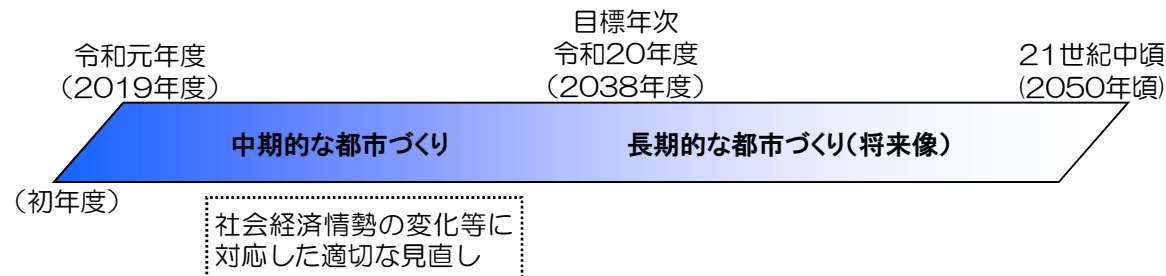
対象地域

- 総合的な都市づくりの方針という観点や他の関連計画との整合性などを踏まえ、都市計画区域内だけではなく、**対象地域は岡山市全域**としている。



目標年次

- 目標年次：概ね20年後の都市の姿を展望し、**令和20年度（2038年度）**としている。
- 都市の将来像：長期的視点に立って21世紀中頃（2050年頃）を念頭に描く。



1 都市計画マスタープランの概要

都市づくりの基本理念

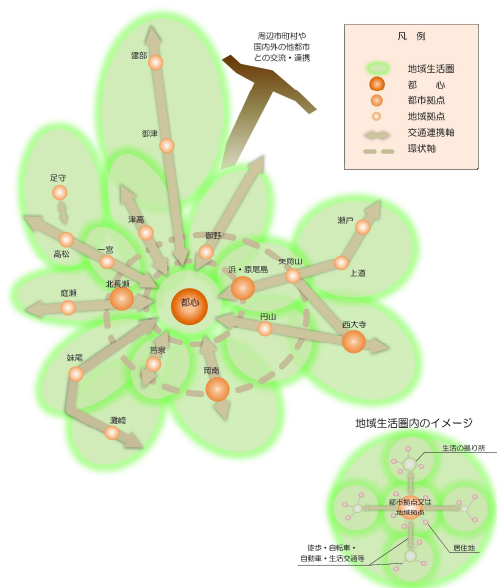
- ▶ 本市独自の魅力や特徴を磨きながら次世代に引き継ぎ、充実した社会資本ストックを有効に活かして、一定程度の密度をもった空間を維持し、人と人、人とまちが繋がる「コンパクトでネットワーク化された都市づくり」への取組を加速させることが重要。
- ▶ 人口減少・超高齢社会においても、誰もが「すやかに」「しあわせに」暮らすことができ、人やまちが健幸で、持続的に発展し未来に躍動する交流拠点都市を目指す。

人とまちが健幸で、持続的に発展する交流拠点都市 岡山

都市空間形成の基本方向

- ▶ 第六次総合計画では、将来の都市の形として「コンパクトでネットワーク化された都市構造（公共交通を中心としたマスカット型都市構造）」を位置づけるとともに「都市の活力を高め、市民の暮らしを支える拠点の形成」と「安全・安心で利便性の高いネットワークの形成」の2つの方向性を定めており、これらをマスタープランにおける「都市空間形成の基本方向」として設定している。

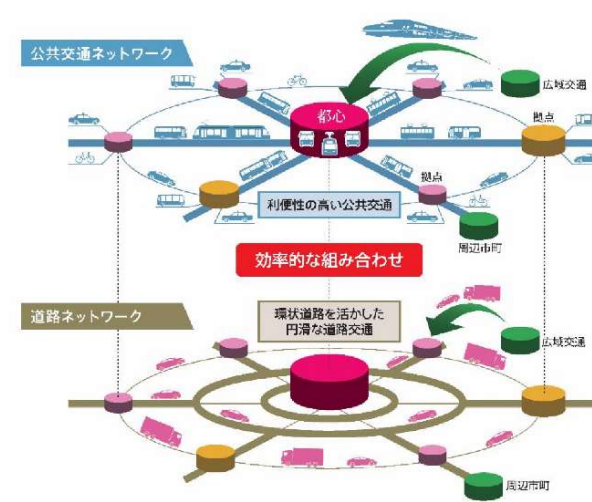
■コンパクトでネットワーク化された都市構造
～公共交通を中心とした「マスカット型都市構造」のイメージ～



■都市の活力を高め、市民の暮らしを支える拠点の形成
～密度の高いまとまりのある都市空間のイメージ～



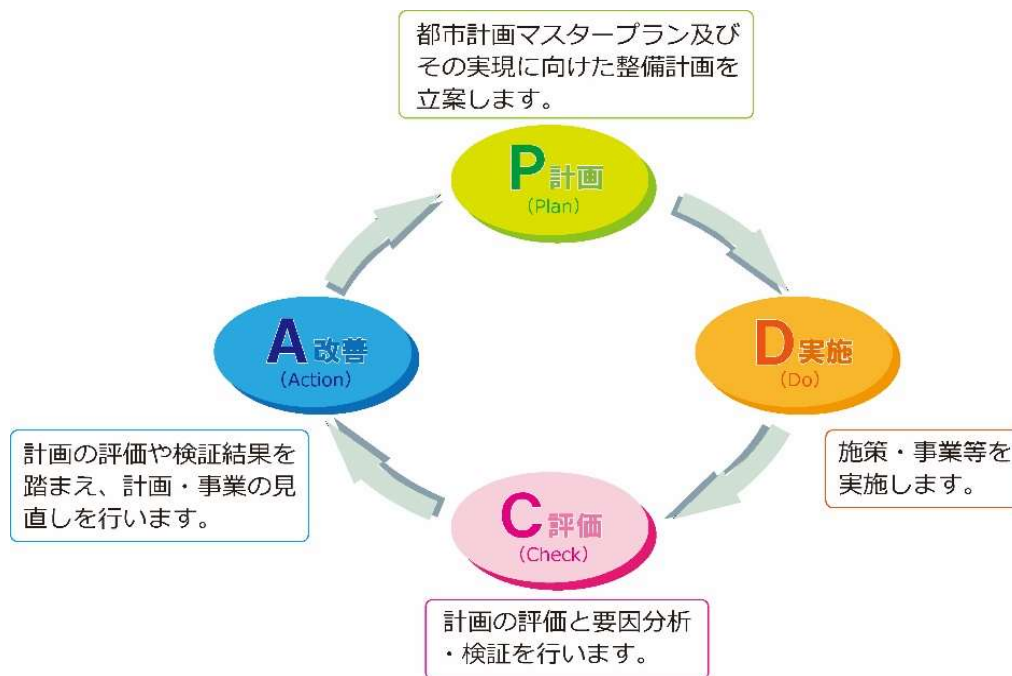
■安全・安心で利便性の高いネットワークの形成
～交通ネットワークイメージ～



進行管理と評価について

- マスタープランは、長期的な視点に立った都市計画の基本的な方針であり、目指すべき都市像を実現していくためには、相当の長期間を要することから、一定の継続性、安定性が求められる一方で、社会情勢の大きな変化にも柔軟に対応する必要がある。
- このため、PDCAサイクルによる適正な進行管理を行い、国勢調査や都市計画調査等の各種統計データ、市民意識調査結果等を用いて、概ね5年ごとを目途に総合的な評価・検証を行うこととしている。
- 本市では、平成31年4月にマスタープランを改定しており、令和6年4月で5年が経過するため、評価・検証を実施する。
- また、計画の評価・検証の結果、社会経済情勢の変化、関係法令の改正、上位・関連計画の見直しなどを踏まえ、必要に応じてマスタープランの見直しを行うこととしている。

■PDCAサイクルによる進行管理



評価・検証方法

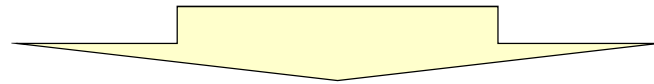
- マスタープランは、人口減少・超高齢社会においても、誰もが「すこやかに」「しあわせに」暮らすことができ、人やまちが健幸で、持続的に発展し未来に躍動する交流拠点都市を目指すという都市づくりの基本理念に沿い、6つの都市づくりの基本目標を定めている。
- 評価・検証では、都市づくりの基本目標毎に定められている「視点」を踏まえ、関連する定量的な評価指標である「各種統計データ」や「市民意識調査による満足度の割合」の推移状況、「主な取組状況」を総合的に勘案し、「都市づくりの基本目標」の実現に向けた進捗状況の確認を行う。

■評価・検証の流れ

都市づくりの基本目標	
目標①	中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり <視点> 中四国の発展をリードする拠点都市 <視点> 地域全体の発展をけん引する都心
目標②	各地域の拠点を中心としたコンパクトでネットワーク化された都市づくり <視点> 公共交通を軸としたコンパクトでネットワーク化された都市 <視点> 生活の質が高く活力あふれる都市 <視点> 環境と調和した魅力ある地域
目標③	誰もが移動しやすい都市づくり <視点> 人と環境にやさしく、誰もが移動しやすい都市 <視点> 人やモノの交流や流通の活性化 <視点> 人中心の歩きたくる都市
目標④	水と緑にあふれた美しく風格ある都市づくり <視点> 水と緑を感じられる暮らし <視点> 歴史・文化などを感じられる心豊かな暮らし
目標⑤	安全・安心で暮らしやすい都市づくり <視点> 災害に強く、安全・安心に暮らせる都市 <視点> 誰もが暮らしやすい都市
目標⑥	市民との協働による都市づくり <視点> 協働による住みよい・住みたいまち <視点> 地域づくり活動や交流が活発なまち



定量的な評価指標	評価方法						
■各種統計データ (国勢調査等)	各種統計データを基準年(R1)と評価年(R5)で比較し、5年間の推移を確認 ※評価時点でのデータがない場合は、直近のデータを使用し、統計データが未公表などの場合は未評価とする						
	<table border="1"> <tr> <td>推移状況</td> <td></td> <td>評価指標の推移：「基準値」に対し、上昇(改善)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>評価指標の推移：「基準値」に対し、低下(悪化)</td> </tr> </table>	推移状況		評価指標の推移：「基準値」に対し、上昇(改善)			評価指標の推移：「基準値」に対し、低下(悪化)
推移状況		評価指標の推移：「基準値」に対し、上昇(改善)					
		評価指標の推移：「基準値」に対し、低下(悪化)					
■市民意識調査による満足度の割合	市民意識調査による満足度(満足・やや満足)の割合を基準年(R1)と評価年(R5)で比較し5年間の推移を確認						
	<table border="1"> <tr> <td>推移状況</td> <td></td> <td>評価指標の推移：「基準値」に対し、上昇</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>評価指標の推移：「基準値」に対し、低下</td> </tr> </table>	推移状況		評価指標の推移：「基準値」に対し、上昇			評価指標の推移：「基準値」に対し、低下
推移状況		評価指標の推移：「基準値」に対し、上昇					
		評価指標の推移：「基準値」に対し、低下					
<参考> 主な取組状況	5年間の主な取組状況を把握						



「都市づくりの基本目標」の実現に向けた進捗状況を総合的に評価

目標① 中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり

＜視点＞中四国の発展をリードする拠点都市、市域全体の発展をけん引する都心

- 優れた広域拠点性を有する岡山市の立地特性をいかした企業立地の推進により、「企業立地・再投資件数」の指標は上昇している。
- 都心では、市街地再開発事業など民間開発の活発化などにより、「都心や重点整備エリアの人口」「中心市街地の歩行者交通量」「都心の平均容積率」の指標が上昇している。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、「観光客数」「JR岡山駅乗降客数」の指標は回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準には戻っていない。
- 各種取組の推進もあり、「街なかの魅力と賑わいづくり」の満足度の割合は上昇している。

■ 定量的な評価指標【各種統計データ】の推移

評価指標（単位）	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
総人口（人）	719,474 (H27)	724,691 (R2)	
企業立地・再投資件数（件） 【平成28年度からの累計件数】	60 (H28～R1)	101 (H28～R5)	
観光客数（千人）※	7,575	5,093 (R4)	
都心（中心市街地）の人口（人）	52,418 (H27)	55,420 (R2)	
重点整備エリアの人口（人）	26,722 (H27)	29,204 (R2)	
中心市街地の歩行者交通量（人） 上段：平日 下段：休日	4,324 5,654 (H29)	6,158 7,764	
都心の平均使用容積率（%）	191.3 (H27)	193.9	
JR岡山駅乗降客数（1日あたり）（万人）※	13.9	13.1	

※印は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けたと想定され、回復傾向にあるものの未だ低下している指標

「中心市街地の歩行者交通量」：基準年は調査員による59箇所での通行量平均数値であるのに対しR5年度実績はAIカメラによる15箇所での通行量平均数値

■ ＜参考＞主な取組状況

- ・ 空港南産業団地の整備に伴う企業誘致
- ・ 拠点性をいかした企業立地の推進
- ・ 市街地再開発事業の活発化
- ・ 岡山芸術創造劇場ハレノワの整備
- ・ 歩いて楽しいまちなかの回遊性向上と賑わいづくり（下石井公園芝生化や西川緑道公園境界での賑わい創出） など

■ 定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移






評価指標	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
街なかの魅力と賑わいづくり (R1：歩いて楽しい中心市街地の魅力と賑わいづくり)	26.7%	41.0%	

目標② 各地域の拠点を中心としたコンパクトでネットワーク化された都市づくり

＜視点＞公共交通を軸としたコンパクトでネットワーク化された都市、生活の質が高く活力あふれる都市、環境と調和した魅力ある地域



- 「人口集中地区（DID）人口密度」の指標が低下していることから、市街地全体における低密度化は見られるものの、「総人口に対する市街化区域内の人口割合」や「居住誘導区域内人口密度」、「自宅から都心や身近な拠点に公共交通で30分以内に行ける人口」の指標は上昇していることから、都心や各拠点周辺、公共交通軸沿線における居住人口は増加している。
- 一方、「市街化調整区域の開発許可件数」の指標は低下していることから、市街化区域縁辺部における住宅地開発など低密度な市街地の拡大が進行していると推測される。
- 各種取組の推進もあり、「コンパクトで機能的な都市づくり」や「都市としての便利さと自然の豊かさの調和」の満足度の割合は上昇している。

■ 定量的な評価指標【各種統計データ】の推移

評価指標（単位）	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
人口集中地区（DID）人口密度（人/ha）	60.3 (H27)	59.6 (R2)	
総人口に対する市街化区域内の人口割合（%）	80.8 (H27)	81.4 (R2)	
居住誘導区域内人口密度（人/ha）	58.4 (H27)	59.4 (R2)	
自宅から都心や身近な拠点に公共交通で30分以内に行ける人口（万人）	30.3 (H27)	30.7 (R2)	
空き家率（%）	14.4 (H30)	14.4	— (横ばい)
市街化調整区域の開発許可件数（件）	380	462 (R4)	

「空き家率」：推移状況が上昇・低下していないため「—（横ばい）」

■ 定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移

評価指標	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
コンパクトで機能的な都市づくり	23.8%	34.3%	
都市としての便利さと自然の豊かさとの調和	37.8%	56.9%	

■ ＜参考＞主な取組状況






- ・岡山市立地適正化計画の策定
- ・岡山市地域公共交通計画・利便増進実施計画の策定
- ・空き家の適正管理や利活用を促すための空き家の除却・リフォーム等
- ・市街化調整区域における開発許可制度の見直し
 - ・50戸連たん制度の廃止
 - ・周辺地域の集落維持活性化を目的とした20戸連たん制度の新設や用途変更の緩和
- ・地域の未来づくり推進事業の推進 など

目標③ 誰もが移動しやすい都市づくり

＜視点＞人と環境にやさしく、誰もが移動しやすい都市、人やモノの交流や流通の活性化、人中心の歩きたくなる都市

- 平成24年度に実施したパーソントリップ調査と比較し、「自動車分担率」の指標は、微かに低下しており、依然として自動車に過度に依存した状況が続いている。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も大きく、「路面電車・市内バスの日平均乗客数」の指標は回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準には戻っていない。
- 外環状線の一部である市道藤田浦安南町線など都市基盤の整備の進捗により、「都市計画道路のうち改良済道路の割合」「市内の主要渋滞箇所数」の指標は上昇している。
- 各種取組の推進もあり、「公共交通の充実」や「幹線道路の整備」の満足度の割合は上昇している。

■ 定量的な評価指標【各種統計データ】の推移



評価指標（単位）	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
自動車分担率（％）	59.5 (H24)	59.6 (R4)	
一日平均乗客数（千人）※ 上段：路面電車 下段：市内バス	10 34	9 30	
市内の主要渋滞箇所数（箇所）	41	40	
都市計画道路のうち改良済道路の割合（％）	69.5	70.8	
健康寿命（歳） 上段：男性 下段：女性	71.7 74.4 (H28)	72.2 75.0 (R1)	

※印は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けたと想定され、回復傾向にあるものの未だ低下している指標

■ ＜参考＞主な取組状況

- ・公共交通高齢者・障害者運賃割引事業の実施
- ・路面電車乗り入れを含めた駅前広場整備
- ・市道藤田浦安南町線（外環状線の一部）の整備
- ・吉備スマートインターチェンジの24時間化・大型車対応に向けた整備
- ・ハレまち通り（旧県庁通り）一車線化
- ・西川緑道公園筋の歩行者天国の実施
- ・自転車通行空間の整備 など

■ 定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移

評価指標	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
公共交通の充実 （R1：バスや鉄道などの公共交通の充実）	29.4%	35.8%	
幹線道路の整備 （R1：幹線道路や環状道路の整備）	29.4%	37.8%	

目標④ 水と緑にあふれた美しく風格ある都市づくり

＜視点＞水と緑を感じられる暮らし、歴史・文化などを感じられる心豊かな暮らし




- 緑のボリュームアップ事業の推進や北長瀬未来ふれあい総合公園の整備などにより、都市空間の緑化が促進されるとともに、「都市公園の総面積」の指標は上昇している。
- 公共下水道の整備や合併処理浄化槽設置の支援、脱炭素化に向けた取組を推進していることもあり、「汚水処理人口普及率」、「温室効果ガス排出量」の指標は上昇している。
- 各種取組の推進もあり、「公園・緑地の整備や緑化の推進」や「文化芸術活動の振興や歴史文化資源の保存・活用」、「美しい都市景観の形成」の満足度の割合は上昇している。

■ 定量的な評価指標【各種統計データ】の推移

評価指標（単位）	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
都市公園の総面積（ha）	1,095	1,101	
耕作放棄地面積（ha）	1,530 (H27)	—	—
汚水処理人口普及率（%）	84.2	86.1	
温室効果ガス排出量（千t-CO2）	6,119 (H29暫定)	5,283 (R2暫定)	

「耕作放棄地面積」：農林業センサスが未公表

■ 定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移

評価指標	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
公園・緑地の整備や緑化の推進	34.9%	43.8%	
文化芸術活動の振興や歴史文化資源の保存・活用 （R1：文化活動の振興や歴史文化資源の保存・活用）	30.6%	45.7%	
美しい都市景観の形成	31.2%	40.1%	

■ ＜参考＞主な取組状況

- ・ 緑のボリュームアップ事業の推進
- ・ 北長瀬未来ふれあい総合公園の整備
- ・ 景観法に基づく建築物等の届出や屋外広告物の許可による良好な景観形成の創出
- ・ 公共下水道の整備や合併処理浄化槽設置の支援
- ・ 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進
（ノーマイカーデーの実施やスマートエネルギー導入促進支援など）
- ・ 岡山城「天守閣リニューアルオープン」
- ・ 造山古墳群の魅力アップ
- ・ 高松城址公園の魅力向上事業 など

目標⑤ 安全・安心で暮らしやすい都市づくり

＜視点＞災害に強く、安全・安心に暮らせる都市、誰もが暮らしやすい都市

- 建物の耐震診断・改修に伴う補助制度の充実もあり、「住宅・建築物の耐震化率」の指標は上昇している。
- 「火災発生件数」の指標は微かに低下しているものの、「住宅用火災警報器の点検実施率」の指標は上昇している。
- ノンステップバスの導入支援の拡充もあり、「ノンステップバスの導入率」の指標が上昇している。
- 各種取組の推進もあり、「河川の改修等洪水・浸水対策」や「住宅や住環境の整備」の満足度の割合は上昇している。

■ 定量的な評価指標【各種統計データ】の推移



評価指標（単位）	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
住宅・建築物等の耐震化率（％） 上段：住宅 下段：避難路沿道建築物	87 91	89 92 (R4)	
火災発生件数（件）	200	203	
住宅用火災警報器の点検実施率（％）	36	43	
高齢者の居住する住宅の一定のバリアフリー化率（％）	43.2 (H30)	—	—
ノンステップバスの導入率（％）	24 (H30)	30	

「高齢者の居住する住宅の一定のバリアフリー化率」：住宅・土地統計調査結果が未公表

■ ＜参考＞主な取組状況

- ・雨水ポンプ場（今保・白石）、雨水管渠（浦安11号幹線）の整備
- ・雨水流出抑制施設設置や止水板設置等への助成
- ・用水路等転落防止対策の実施
- ・建物の耐震診断・改修に伴う補助制度の充実
- ・各種ハザードマップの作成
- ・バス停のバリアフリー化、ノンステップバスの導入支援の拡充 など

■ 定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移





評価指標	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
河川の改修等洪水・浸水対策	18.6%	37.0%	
住宅や住環境の整備	30.8%	39.0%	

目標⑥ 市民との協働による都市づくり


＜視点＞協働による住みよい・住みたいまち、地域づくり活動や交流が活発なまち

- 地区独自のまちづくりルールを定める地区計画の策定や、地域住民の買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保することを目的としたデマンド型乗合タクシーの導入により、「地区計画策定地区数」、「生活交通導入地区数（試行運転開始地区を含む）」の指標は上昇している。
- 北長瀬未来ふれあい総合公園においてパークPFI制度の導入するとともに、官民連携の協議会組織を立ち上げ、新たな仕組みづくりを開始したことから「パークマネジメント導入公園数」の指標は上昇している。
- 防災に関する説明会の実施などにより、「自主防災組織率」の指標は上昇している。
- 各種取組の推進もあり、「ボランティア・NPO・市民活動の支援」の満足度の割合は上昇している。

■ 定量的な評価指標【各種統計データ】の推移

評価指標（単位）	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
地区計画策定地区数（地区）	19	21	
生活交通導入地区数 （試行運転開始地区を含む）（地区）	3	8	
パークマネジメント導入公園数（公園）	0	1	
自主防災組織率（%）	92.2	94.2 (R4)	

■ 定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移

評価指標	基準値 （基準年：R1）	実績値 （評価年：R5）	推移状況
ボランティア・NPO・市民活動の支援	24.3%	28.7%	

■ ＜参考＞主な取組状況

- ・西川緑道公園筋の歩行者天国の実施
- ・公園緑地などにおける指定管理者制度の活用
- ・北長瀬未来ふれあい総合公園におけるパークPFI制度の導入及び官民連携の協議会組織の設立
- ・岡山ESDプロジェクト推進事業に基づく取組
- ・地区計画の策定
- ・デマンド型乗合タクシーの導入
- ・区のまちづくりの推進 など
（区の魅力創造・発信事業や地域の絆づくり事業）

都市づくりの基本目標全体の評価

- 5年間の都市づくりに関する市の各種取組に一定の効果も見られ、**定量的指標である「各種統計データ」の指標は全体の約7割以上（30の指標のうち22の指標）が上昇し、「市民意識調査による満足度の割合」の指標は全て（11の指標）が上昇していることから、都市づくりの基本目標の実現に向けて着実に推移している**と評価できる。
- 一方、低下している指標から、主に低密度な市街地の拡大が進行していると推測されるものと、新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けたものが確認できた。**今後も引き続き、これらの指標の変化を注視しながら、コンパクトでネットワーク化された都市づくりの実現に向けて、「岡山市立地適正化計画」や「岡山市地域公共交通計画」に基づく取組を推進していく必要がある。**

■定量的な評価指標【各種統計データ】の推移

都市づくりの基本目標	上昇	横ばい	低下		合計
			(評価指標数)		
			コロナ	その他	
目標① 中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり	6	0	2	0	8
目標② 各地域の拠点を中心としたコンパクトでネットワーク化された都市づくり	3	1	0	2	6
目標③ 誰もが移動しやすい都市づくり	3	0	1	1	5
目標④ 水と緑にあふれた美しく風格ある都市づくり	3	0	0	0	3
目標⑤ 安全・安心で暮らしやすい都市づくり	3	0	0	1	4
目標⑥ 市民との協働による都市づくり	4	0	0	0	4
計	22 (73%)	1 (3%)	3 (10%)	4 (14%)	30 (100%)

※統計データが未公表など未評価の指標は除く

■定量的な評価指標【市民意識調査による満足度の割合】の推移

都市づくりの基本目標	上昇	低下	合計
目標① 中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり	1	0	1
目標② 各地域の拠点を中心としたコンパクトでネットワーク化された都市づくり	2	0	2
目標③ 誰もが移動しやすい都市づくり	2	0	2
目標④ 水と緑にあふれた美しく風格ある都市づくり	3	0	3
目標⑤ 安全・安心で暮らしやすい都市づくり	2	0	2
目標⑥ 市民との協働による都市づくり	1	0	1
計	11 (100%)	0 (0%)	11 (100%)

「コロナ」が影響し、回復傾向にあるものの未だ低下している指標

- ・観光客数
- ・JR岡山駅乗降客数
- ・一日平均乗降客数【路面電車・市内バス】

「コロナ」以外が影響し低下している指標

- ・人口集中地区（DID）人口密度
- ・市街化調整区域の開発許可件数
- ・自動車分担率 など

今後、主に推進していくべき取組

- ・コンパクトでネットワーク化された都市づくりの実現に向けて
「岡山市立地適正化計画」に基づく取組の推進
「岡山市地域公共交通計画」に基づく取組の推進

3 上位・関連計画との整合

上位計画【岡山市第六次総合計画】との整合

➤ 令和3年6月に同後期中期計画が策定されたが、長期構想の基本方向に変更はなく整合が図られていることから、引き続き「コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり」などの内容に即して、都市づくりを推進する。

- 将来都市像：「Ⅰ 経済・交流都市」、「Ⅱ 子育て・教育都市」、「Ⅲ 健康福祉・環境都市」
- 都市づくりの10の基本方向：「基本方向2 コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり」

上位計画【岡山県南広域都市計画区域マスタープラン】との整合

➤ 令和2年4月に浅口市域（旧金光町域）を都市計画区域から分離するなど計画の改定を行っているが、都市づくりの方針に変更はなく整合が図られていることから、引き続き「集約型都市構造の実現を目指した都市づくり」の内容に即して、都市づくりを推進する。

- 都市づくりの基本理念：「中四国の中枢拠点としてふさわしい力強い都市づくり」
- 都市づくりの方針：「集約型都市構造の実現を目指した都市づくり」「にぎわいのある中心市街地の形成を目指した都市づくり」
 「安全・安心で暮らしやすい都市づくり」「環境負荷の小さい低炭素型の都市づくり」「産業振興による活力あふれる力強い都市づくり」
 「個性と魅力あふれる都市づくり」「連携による相互補完とグローバルな発展を目指した都市づくり」

関連計画との整合

➤ 平成31年4月のマスタープラン改定後、「コンパクトでネットワーク化された都市づくり」の方針を実現するための実行戦略である「岡山市立地適正化計画（令和3年3月）」の策定をはじめ、関係法令の改正や社会経済情勢の変化を反映するため、都市づくりに関連する各種計画が改定されているが、いずれもマスタープランに定める分野別の基本方針に沿った内容であり、整合が図られている。

<都市づくりに関わる各種の関連計画>

岡山市産業振興アクションプラン、岡山市農林水産振興アクションプラン、岡山市総合交通計画、岡山市みちづくり計画、岡山市緑の基本計画、岡山市住生活基本計画、岡山市景観計画、地域防災計画 など

見直しの判断と今後の都市づくりの進め方

■評価・検証の結果について

都市づくりの基本目標の実現に向けて着実に推移していることが確認できた。

■上位計画・関連計画との整合について

上位計画は、マスタープランに定める都市づくりの基本方針と整合が図られており、都市づくりに関連する各種計画についても改定されているが、いずれもマスタープランに定める分野別の基本方針に沿った内容であり、整合が図られていることが確認できた。



見直しの判断と今後の都市づくりについて

- 評価・検証の結果では、都市づくりの基本目標に向けて着実に推移しており、上位計画・関連計画との整合も図られているため、現時点でのマスタープランの見直しは行わず、引き続き、「コンパクトでネットワーク化された都市づくり」を推進し、魅力的で賑わいあふれ、持続的に発展する都市を目指すこととする。
- 今後、上位計画の見直し等により、本市が目指す都市づくりの基本方針に大きな変更が生じる場合には、必要に応じてマスタープランの見直しを図るものとする。